

☆中国

**業績**

**儀征化繊、2.85 億元の損失---第 1 四半期**

大手ポリエステルメーカー儀征化繊が 4 月 26 日に発表した 2013 年第 1 四半期（1～3 月）の業績によると、売上は前年同期比 0.9%減の 41.14 億元、損益は、前年同期の 72.7 萬元の利益から 2.85 億元の損失へと赤字転落した。同社によると、前年同期に比べ、ポリエステル製品の販売単価は 5.3%下落した一方で販売量は 4.7%増加した。

1～3 月の儀征化繊のポリエステル生産は、前年同期比 8.8%増の 57.47 万ト、ポリエステル重合の稼働率は 91.6%であった。また、PTA 生産は同 0.7%増の 26.94 万トであった。同社のポリエステル繊維の生産のうち、差別化繊維の生産は、16.24 万トで差別化比率は 87.6%と前年同期に比べ 1.1 ポイント上昇した。

☆台湾

**合繊増設**

**力鵬、ナイロンプラントを増設へ**

4 月 23 日、大手ナイロンメーカーの力鵬は、20 億台湾元（約 67 億円）を投じ、彰化芳苑工場に年産 18 万トのナイロンチップ工場を新設することを明らかにした。2013 年年末～2014 年初めに着工、2015 年第 4 四半期に生産開始の計画。同社によると、現在のナイロン相場から計算すると、新工場は年間 145 億台湾元（約 490 億円）の売上増をもたらす。

力鵬は、過去 6 年、相次いでナイロンチップラインを増設、現在の設備能力は日産 1,100 ト（年産約 40 万ト）と BASF に次ぐ世界第 2 位の規模となった。この増設が完成すると、力鵬の生産能力は日産 1,600 ト（年産 58 万ト）となり、さらに現在進めているボトルネック解消が完了すると、日産 1,700 ト（年産約 62 万ト）に拡大し、BASF の生産能力を上回り、世界最大になるという。

力鵬は、増設された工場の製品は、多くは輸出される見通しであることを明らかにしている。力鵬は、中国では近年カプロラクタムの生産が拡大している一方で、中国国内のナイロンチップは品質で力鵬には及ばず、中国の繊維業界は同社からのナイロンチップの輸入に依存しており、ここ数年中国向け輸出が増加していることや欧州、日本などへの輸出拡大に向けた協議も進めているという。

☆インド

**企業業績**

**Reliance、2012 年度決算報告**

Reliance Industries Limited (RIL) が 2012 年度（2012 年 4 月～2013

年3月末決算)の業績を発表した。売上は前年比10.8%増の3.9兆ルピー(731億ドル)、純利益は同5.9%増の2,088億ルピー(38億ドル)で、民間企業としてはインド最大の利益を計上した。輸出額は同15%増の441億ドルとなり、インド最大級の輸出企業でもある。

単位：1000万ルピー、10億ドル		単体					連結				
		2013年		2012年		前年比	2013年		2012年		前年比
		ルピー	\$	ルピー	\$		ルピー	\$	ルピー	\$	
売上高	通年 1-3月	371,119 86,618	68.4	339,792 87,833	62.6	9.2% -1.4%	397,062	73.1	358,359	66.0	10.8%
PBT	通年 1-3月	38,785 10,068	7.1	39,811 8,859	7.3	-2.6% 13.6%	40,912	7.5	40,708	7.5	0.5%
税引前当期純利益	通年 1-3月	26,284 7,120	4.8	25,750 5,432	4.7	2.1% 31.1%	26,150	4.8	25,339	4.7	3.2%
当期純利益	通年 1-3月	21,003 5,589	3.9	20,040 4,236	3.7	4.8% 31.9%	20,879	3.8	19,716	3.6	5.9%
株当たり当期純利益	通年 1-3月	64.8 17.3	1.2	61.2 12.9	1.1	5.9% 34.1%	70.7	1.3	66.2	1.2	6.8%

(出所：RIL)

2012年度の石化ビジネスの売上は前年比9.3%増の8,810億ルピー(162億ドル)となった。石化製品生産は前年比1.3%減であったが、価格の上昇(同10.6%増)により一部相殺された形となった。EBITの利益率は8.3%で前年度の11.1%から低下したが、これは主にポリエステル繊維品の利益率が低下したためである。以下に石化分野の業績をセクター別に記載する。

#### ■ ポリマー

2012年度のポリマー製品の国内需要は、前年比12%増で、これは全分野で国内需要が増加したことが主な要因である。内需の増加は、包装品、不織布、成形品、パイプ、フィッティングシート等の分野の成長に支えられている。PP(ポリプロピレン)、HDPE(高密度ポリエチレン)/LLDPE(鎖状低密度ポリエチレン)、LDPE(低密度ポリエチレン)、PVC(ポリ塩化ビニル)の国内需要は、それぞれ前年比13%増、10%増、19%増、14%増となった。

2012年度のポリマー部門の主力製品であるPPの利益率は安定していた一方、PVCのスプレッド(※スプレッド：原料と製品の価格差のこと)も原料価格の下落で改善した。

2012年度のポリマー生産は、予定されていたNagothaneとDahejの工場閉鎖の影響を受けることなく440万トと順調であった。

#### ■ ポリエステル

2012年度のポリエステル製品の需要は、前年比5.1%増であった(2011年度は2%増)。需要はPETが10.1%増と健闘、短繊維は4.4%増とな

った。長繊維では、FDYは10%の成長であった。長繊維とPETは、南インドを中心とする主要な消費地区で深刻なエネルギー不足が続いたため伸び率は頭打ちとなった。

■ ポリエステル中間原料

2012/13年のPX（パラキシレン）、EG（エチレングリコール）のスポットは堅調を維持したが、PTAのスポットは供給過剰によりスポットが圧縮し、不振であった。

2012年度のポリエステル中間原料（PX、PTA、EG）生産は477万トと、前年度とほぼ同水準であった。ポリエステル（長繊維／短繊維／PET）生産は、前年比2%減の163万トとなった。長繊維の工場閉鎖が主な原因である。

■ その他石化原料

ベンゼンの需要は、主としてカプロラクタムの需要不振により前年比4%減となった。ベンゼン製品の生産は2%増であった。

以上